

輝 SONODA SPORTS PRESS

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

学部・学科
人間健康学部 総合健康学科 人間教育学部 児童教育学科
人間看護学科 経営学部 ビジネス学科
食物栄養学科 短期大学部 生活文化学科
幼児教育学科

お問い合わせ先 スポーツ振興センター
TEL 06-7507-1813 FAX 06-7507-1814
URL <http://www.sonoda-u.ac.jp/sports/>
instagram sonodasp
Twitter sonodasports

総合力発揮で入賞ラッシュ
2022年5月の関西学生対校選手権で陸上競技部は女子総合2位。優勝3種目のほか、上位入賞や同種目複数入賞で高い総合力を示した。

古林愛理（総合健康学科2年）が優勝した棒高跳は113位を達成。200mでは三浦愛華（同学科3年）と昌琴音（食物栄養学科2年）がワンツーフィニッシュを飾った。



200mで三浦(右)と昌(左)がワンツーフィニッシュ

800mでは渡辺愛（同学科2年）が2分07秒92の好記録で優勝。投てき陣も2人が入賞し、存在感を見せた。

1年生も健闘。走高跳で田村璃々花（総合健康学科）が3位に入り、七種競技では第1種目の100mハードルで高得点をあげた越智心愛（同学科）が2位に。先輩も踏ん張り、内藤結衣（同学科3年）が3位、藤本千



七種競技は3人入賞、越智が2位に入った

愛（食物栄養学科3年）が7位と3人入賞を達成した。同年7月の西日本学生対校選手権は、100mの三浦が11秒68の大会新記録で2位に入るなど入賞を積み上げて、女子総合3位。関西の大学では最上位の成績だった。



1m70を2回目に飛び、3位入賞した田村

陸上競技部



棒高跳
古林V

覚醒と旋風

日本インカレ4位

女子総合

関西学生に続き、日本学生でも優勝した古林。園田学園女子大学勢として大会2連覇となった。

第91回日本学生対校選手権（インカレ）は2022年9月9-11日、たけびしスタジアム京都で行われ、陸上競技部は女子総合4位に入った。

初日の棒高跳で古林愛理（総合健康学科2年）が4m10を跳んで優勝。前年優勝の大坂谷明里（同学科2年）が2位、森陽菜（同学科3年）が7位に入った。

古林は当時の自己記録（4m13）を更新できず悔しがったが、「来シーズンは日本記録更新と日本選手権優勝を目標に、たくさん笑う年になりたい」とさらに飛躍する姿を描いている。

短距離陣も奮闘した。400mでは安達菜鈴（同学科2年）が優勝争いを演じ、0秒03差で2位。53秒65の自己新記録をマークした。

躍進の優勝1・入賞9

クローズアップ エースプリンター三浦愛華

2022年4月の日本グランプリシリーズ出雲陸上女子100mを11秒76で制覇。大きな自信になった。しかし、5月の関西学生で痛恨のフライング失格。それでもチームメイトの励ましで奮い立ち、200m優勝、400mリレー3位と活躍した。日本学生は6位。目指していた3位以内に届かず、また、100mの自己記録を更新できないままシーズンを終えた。「リレーと100mで日本一になる目標を達成できるように、成長した自分で来季に挑みます」。学生ラストシーズンには大きなタイトルをつかみたい。

自己記録
100m 11秒61
200m 24秒27



200m、400m、両リレーの4種目で入賞した安達

それぞれの役割をまっとうしてつかんだチーム過去最高の女子総合4位（関西勢最上位）だった。

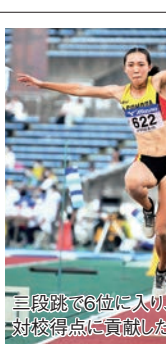
「ここまで来たら一番になりたかった」と安達。それでも「ずっと目標にしていた53秒台が出た」と笑みを浮かべて言い、記録は自信になったようだ。

短距離エースの三浦愛華（同学科3年）は100m6位。2年連続入賞を飾った。800mでは渡辺愛（食物栄養学科2年）が積極性



トリプル入賞した棒高跳の古林(左から)古林、大坂谷、森

主将の福林春香（同学科4年）は「チームのモットーは『総力戦。全員で園田らしく戦えたことを誇りに思います』と感慨深げ。選手・応援・サポート・学連員がそれぞれ役割をまっとうしてつかんだチーム過去最高の女子総合4位（関西勢最上位）だった。



三段跳で6位に入り、対校得点に貢献した廣瀬

と我慢強さを発揮して4位に。三段跳では廣瀬桃奈（同学科4年）が6位に入賞する健闘を見せた。

最終種目の4×400mリレーでは、アンカーの安達が先頭の立命館大を懸命に追い上げた。あと一歩及ばなかったが堂々と準優勝した。

- ◆関西学生対校選手権**
▽200m ①三浦24秒43 ②昌24秒78 ③渡辺2分07秒92 ④安藤2分10秒09 ⑤100mハードル ④古西14秒11 ⑤400mハードル ④齊藤59秒14 ⑤1万競歩 ③藤野48分19秒51 ④小林52分32秒00 ⑤4×100mリレー ①杉村1分30秒 ②廣瀬45秒75 ③杉村1分30秒 ④中西1分30秒 ⑤齊藤1分30秒 ⑥中西1分30秒 ⑦齊藤1分30秒 ⑧中西1分30秒 ⑨齊藤1分30秒 ⑩中西1分30秒
- ◆西日本学生対校選手権**
▽100m ①三浦11秒76 ②渡辺11秒76 ③三浦11秒76 ④渡辺11秒76 ⑤三浦11秒76 ⑥渡辺11秒76 ⑦三浦11秒76 ⑧渡辺11秒76 ⑨三浦11秒76 ⑩渡辺11秒76
- ◆日本学生対校選手権**
▽100m ①三浦11秒76 ②渡辺11秒76 ③三浦11秒76 ④渡辺11秒76 ⑤三浦11秒76 ⑥渡辺11秒76 ⑦三浦11秒76 ⑧渡辺11秒76 ⑨三浦11秒76 ⑩渡辺11秒76



粘り、追い上げ、準優勝した4×400mリレーメンバー(左から)安藤、齊藤、昌、安達



ラクロス部

「初の1部リーグでは勝つことの難しさを実感しました。日々の練習から1部

関西学生ラクロスリーグ無念の2部降格

校に勝てるよう取り組み、部員全員でリーグ戦を戦い抜くことができたと思いま

大会成績

- 関西学生リーグ戦(女子1部)
9-10 関西大
4-16 立命館大
11-12 龍谷大
1-18 関学大
6-14 神戸大
3-18 同志社大
11-12 京都大



勝利のカウント0-1

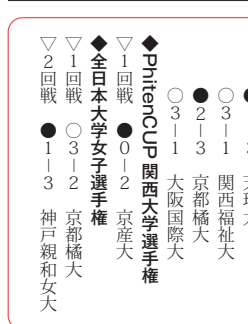
バレーボール部は関西大学リーグの女子1部に参戦。春季は12校中5位の成績をあげた。秋季は1次リーグAブロックで5位。下位リーグ戦に回った。2勝3敗と負け越し、最終順位は10位と悔しい結果になった。



関西大学バレー女子1部リーグ 春季5位、秋季10位
インカレ初戦突破
バレーボール部

全日本大学女子選手権は秋季リーグの対戦で敗れた京都橋大を退けて1回戦を突破。セットカウント0-1

2回戦は全日本大学選手権ベスト4の神戸親和女子大に敗れたが、前年(初戦敗退)からの成長がプレーに現れていた。



神谷歩実

戦いを振り返った。関西1部に定着している園田学園女子大学。来季こそ、1部上位と全日本大学ベスト16強以上へ駆け上げたい。

大会成績
関西大学春季リーグ(女子1部)
3-2 龍谷大
0-3 京都橋大
3-0 千里金蘭大
2-3 帝塚山大
0-3 神戸親和女大
2-3 武庫川女大
2-3 天理大
3-0 関西大
3-2 芦屋大
3-1 関西福祉大
3-1 京産大
3-1 京都大



ソフトボール部

軟式野球部

全日本大学女子野球選手権(2022年8月)に3年ぶりに出場した。1回戦で富山大に2-3で敗れたが、「悔しい結果でしたが、今まで頑張ってきたことを

大会成績

- 関西大学春季リーグ(女子1部)
3-2 龍谷大
0-3 京都橋大
3-0 千里金蘭大
2-3 帝塚山大
0-3 神戸親和女大
2-3 武庫川女大
2-3 天理大
3-0 関西大
3-2 芦屋大
3-1 関西福祉大
3-1 京産大
3-1 京都大

Q1 状況によって臨機応変に行動することが大変でした。しかし毎日コツコツ積み重ねることで、自分のペースで両立することができました。
Q2 何事も諦めずに一生懸命やりきった経験が私の心に強く残っています。人間的にも大きく成長できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。
Q3 今しかできないことにどんな挑戦してほしいです。そしてどんな時も周りの人への感謝の気持ちを忘れないでいてください。

Q1 「強いスポーツ選手は勉強も両立させている」という言葉に出会い、両立することに励みました。コロナ禍ではタイムマネジメントについて考えさせられました。
Q2 「基礎の大切さ」と「コミュニケーションの必要性」です。
Q3 『今できることに集中!』勉強も部活も今しかできないことばかりです。1日1日を大切にやり切ったと思える大学生活にしてください。

Q1 必ず教員採用試験に合格して小学校教諭になる」と日々自分を言い聞かせて、やるべきことを大切にして継続することが大変でした。
Q2 部活動では自分の役割に責任を持って行動するなど、社会に出るうえで大切なことを学びました。
Q3 いつも応援してくれる家族や支えてくれる人、自分で決めた目標を思い出し頑張れば、結果はついてきます。皆さんが充実した大学生活を送れることを願っています。

Q1 時間を上手に使うのが難しかったですが、クラブも学業も自分のやりたいことだったので、楽しい感情の方が大きかったです。
Q2 実習をたくさんさせていただき、子どもへの接し方や配慮を学ぶことができました。クラブでは礼儀を学ぶことができ、人間的、精神的に成長させていただきました。
Q3 つらいこともしんどいことでもあると思いますが、頑張れば頑張るほど、自信につながると思います。

Q1 両立で大変だったことは1年生の時の忙しい日々です。「時間は自分で作るもの」と学び、「何事も準備をすること、物事の優先順位の大切さを実感しました。
Q2 何事もひたむきに努力することの大切さです。今後は素直な心で忘れず、努力と挑戦ができる人になれるよう頑張ります。
Q3 屈しない強いチームになるために真心と思いやりの溢れる剣道部になってください。応援しています。

Q1 教育関連の免許を3種類取得することに決めていたため、授業数が周より多く、睡眠時間の確保が大変でした。
Q2 お互いを認め合うことで、認め合い、共に支え合うことで、どんな困難も乗り越えられると知りました。
Q3 学業とクラブの両立は難しいですが、将来の夢が明確に決まっていれば頑張れるので、今の瞬間を大切に全力で楽しんでください!

Q1 勉強を計画的・効率的に進めることです。それを意識して勉強をし、私は毎回の定期テストでCからS以上という目標を達成できました。
Q2 自分と向き合い、視野を広げることです。私はこうだからと決めつけなかったからこそ気持ちの発見がたくさんあると学びました。
Q3 大学生活は本当に一瞬です。後先のことをしっかり考え、何事もやり切れる力をつけて、自分の可能性を信じて頑張ってください!

Q1 時間を上手に使うのが難しかったですが、クラブも学業も自分のやりたいことだったので、楽しい感情の方が大きかったです。
Q2 実習をたくさんさせていただき、子どもへの接し方や配慮を学ぶことができました。クラブでは礼儀を学ぶことができ、人間的、精神的に成長させていただきました。
Q3 つらいこともしんどいことでもあると思いますが、頑張れば頑張るほど、自信につながると思います。

Q1 状況によって臨機応変に行動することが大変でした。しかし毎日コツコツ積み重ねることで、自分のペースで両立することができました。
Q2 何事も諦めずに一生懸命やりきった経験が私の心に強く残っています。人間的にも大きく成長できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。
Q3 今しかできないことにどんな挑戦してほしいです。そしてどんな時も周りの人への感謝の気持ちを忘れないでいてください。

Q1 必ず教員採用試験に合格して小学校教諭になる」と日々自分を言い聞かせて、やるべきことを大切にして継続することが大変でした。
Q2 部活動では自分の役割に責任を持って行動するなど、社会に出るうえで大切なことを学びました。
Q3 いつも応援してくれる家族や支えてくれる人、自分で決めた目標を思い出し頑張れば、結果はついてきます。皆さんが充実した大学生活を送れることを願っています。

Q1 時間を上手に使うのが難しかったですが、クラブも学業も自分のやりたいことだったので、楽しい感情の方が大きかったです。
Q2 実習をたくさんさせていただき、子どもへの接し方や配慮を学ぶことができました。クラブでは礼儀を学ぶことができ、人間的、精神的に成長させていただきました。
Q3 つらいこともしんどいことでもあると思いますが、頑張れば頑張るほど、自信につながると思います。

Q1 勉強を計画的・効率的に進めることです。それを意識して勉強をし、私は毎回の定期テストでCからS以上という目標を達成できました。
Q2 自分と向き合い、視野を広げることです。私はこうだからと決めつけなかったからこそ気持ちの発見がたくさんあると学びました。
Q3 大学生活は本当に一瞬です。後先のことをしっかり考え、何事もやり切れる力をつけて、自分の可能性を信じて頑張ってください!

祝卒業! SONODAから羽ばたけ!
【テニス部】 伊藤七海、小川瑠衣、櫻井ゆき、臺涼華、宮崎明琴、赤井琴
【ソフトボール部】 石田紅葉、佐藤杏美、高橋ひより、森本なるか、廣瀬美綾、小林
【バスケットボール部】 麻生真衣、服部梓、福田步寧、神谷
【剣道部】 池田仁美、川端紗季、橘いづみ、中丁美乃
【陸上競技部】 安藤百夏、石谷綾、井上あず穂、圓城寺奈緒、倉本美知、倉本美垂、上島怜奈、藤兒齊
【バレーボール部】 山中七花、奥田結愛、中尾奈歩、神谷朝日、近藤和
【ラクロス部】 山村菜樹、福田歩
【軟式野球部】 吉川桃奈



全員が結束した成果
 剣道部は2022年9月に行われた、団体戦で争う第46回関西女子学生優勝大会に出場。前年の準優勝を上回る優勝を目指したが、同志社大との準決勝の代表戦で惜しくも敗れ、3位となった。

「春の関西女子学生選手権では多くの方の支えがあり優勝することができました。昨年の冬に手首の手術をしたが、懸命に稽古に打ち込み、最後まで諦めずに勝ち取れた優勝は心に残る試合となりました。4年間、剣道の楽しさやひたむきに努力することの大切さを学びました。温かいご指導をくださった先生方、先輩方に出会えたお陰だと、心から感謝の気持ちでいっぱいです」

心に残る優勝

同大会の出場メンバーは池田仁美(総合健康学科4年)、川端紗季(児童教育学科4年)、清家野々花(総合健康学科2年)、宮本もえ(児童教育学科2年)、白石依子(同学科2年)、森結美華(総合健康学科1年)。個人戦の関西女子学生選手権で優勝し、チームを



「前年(準優勝)を超える」には届かなかったが、3位の好成績に笑顔を見せるメンバー

駅伝競走部

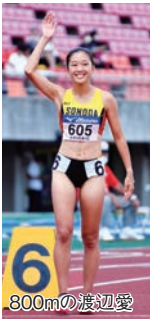
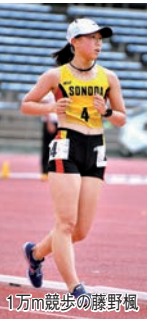


関西学生女子対校駅伝3区金山から4区藤野葵へたすきがわたる

2年ぶり出場で14位 関西学生女子駅伝

関西学生女子対校駅伝は2022年9月、神戸市のしあわせの村特設コース6区間30kmで行われ、2年ぶりに出場した駅伝競走部は1時間54分16秒で14位だった。1区13位発進。順位浮上の機会をつくれなかったが、大学新記録でゴールした。

トラックシーズンは2年生2人が健闘。800mの渡辺愛(食物栄養学科2年)は5月の関西学生対校選手権で優勝し、9月の日本学生対校選手権では4位入賞し、飛躍を遂げた。一方でその決勝レースで「自分の武器であるラストスパートが出せなかった」と悔しさを胸に刻み、来季は「勝ちまくるレースができるよう



1万m競歩の藤野楓

800mの渡辺愛

スポーツ振興センターTOPICS

第4回そのだスポーツフェスティバル 2023年2月に開催
 いろいろなスポーツに挑戦してみよう!
 本学の8強化クラブ学生が初心者から経験者を対象にスポーツ教室を開催します。日程は2023年2月11(土)、12(日)、18(土)、19(日)、26(日)の5日間で、いろいろなスポーツを体験できるスケジュールになっております。この機会に是非ご参加ください!

その結果、一人ひとりが園田学園女子大学剣道部としての自覚と責任を持ち、チーム一丸で挑めた試合でした」と振り返り、「みんなできかみ取った3位と全日本への切符はとても嬉しかったです」と成果を強調した。

11月の全日本女子学生優勝大会は1回戦を4-0で快勝。2回戦は強豪の筑波大に挑み、勝敗数は互角だったが、本数差(1本)で惜敗した。

シーズンを通して、「全員で勝ちにいくことができた試合ばかりで個人個人も、剣道部としても、とても成長できた1年間だったと思います」と話すのは新主将を任される山本知優(総合健康学科3年)。新たな挑戦を見据え、「部員全員が同じ目標に向かって努力できるチームを作り、全員で今年の成績を上回るよう日々

大会成績

◆関西女子学生選手権 (ベスト16以降)

- ▽5回戦 池田○中西(明徳大)
- 池田○辻田(関学大)
- 池田○奥田(関学大)
- 池田○出口(関学大)
- 池田○武田(大教大)
- ◆関西女子学生優勝大会 ○5-10 京大
- 4-10 甲南大
- 2-10 花園大
- 0-10 同志社大
- (代表戦)
- ◆全日本女子学生優勝大会 ○4-10 金沢大
- 2-12 筑波大
- (本数2-3)



大会に向けて、ミーティングを重ね、団結力を高めた

春季3部1位&秋季2部2位 4年で5部から躍進

2019年に創部し、関西学生リーグに参戦してから順調にステージを上げてきたバドミントン部。2022年度の春季リーグは女子3部で戦い、ブロック1位で上位リーグへ進出した。そこでも危なげなく3連勝。3部優勝を飾り、2・3部入替戦では相手棄権により、2部昇格を決めた。

2部で迎えた秋季リーグはブロック2位&上位リーグ2位。1・2部入替戦に進み、関西最高峰昇格にチャレンジした。しかし1部の壁は厚く、黒星を喫した。



部員5人で秋季リーグ2部準優勝をつかんだ

大会成績

◆関西学生春季リーグ(女子3部)▽ブロック

- 5-10 大産大
- 5-10 大阪大
- 5-10 京大
- ▽3部上位リーグ ○3-11 大教大
- 4-11 近大
- ◆関西学生秋季リーグ(女子2部)▽ブロック
- 1-4 神院大
- 3-12 神戸大
- 3-12 大経大
- 3-12 武庫女大
- 3-12 大体大
- 1-3 甲南大

主将の濱尾真衣(食物栄養学科4年)は「1部昇格への挑戦は敗退に終わりましたが、4年間で5部から2部2位にまで勝ち進むことができました」と成果を強調。来季に向け、松本愛加(同学科3年)は「1部に昇格し、1部の選手と渡り合えるようになる」と目標を定めている。



女子2部のシーズンベスト賞を受賞した松本